

日本学術会議 公開シンポジウム 第96回日本衛生学会学術総会 市民公開講座

環境化学物質の健康影響、 その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて 2. 曝露測定—何をどのように測定するか

日 時

令和8年
(2026年) 3/21 土 15:40-17:40

会 場

栃木県総合文化センター
ホール棟 サブホール
(〒320-8530 栃木県宇都宮市本町1-8)

●アクセス
JR宇都宮線 JR宇都宮駅(西口)下車 バスで「県庁前」下車
徒歩で約3分
東武宇都宮線 東武宇都宮駅から徒歩10分
ホームページはこちら <https://www.sobun-tochigi.jp/access.html>



プログラム

座長：中村 桂子*（東京科学大学）、野原 恵子*（国立研究開発法人国立環境研究所）

15:40 開会挨拶

中村 桂子*（東京科学大学・日本学術会議環境リスク分科会委員長）

15:45-17:20 講 演

1. 中島 大介（国立研究開発法人国立環境研究所・環境リスク・健康領域）

「環境中化学物質の複合曝露の包括的な計測に向けて」(15:45-)

2. 平 久美子（東京女子医科大学附属立正医療センター麻酔科）

「環境医学のインテリジェンス
—ネオニコチノイドと化学物質過敏症」(16:10-)

3. 上島 通浩（名古屋市立大学・大学院医学研究科・環境労働衛生学分野）

「健康リスク評価のための個体曝露量測定」(16:35-)

4. 上田 佳代*（北海道大学・大学院医学研究院・衛生学教室）

「大気汚染物質と気温との相乗的な健康影響」(17:00-)

17:20-17:35 総合討論

17:35 閉会挨拶

小橋 元（獨協医科大学・第96回日本衛生医学会学術総会大会長）

17:40 閉会

*日本学術会議連携会員

環境中に放出される化学物質は人間活動の増大に伴って増加し、その中にはヒトや生態系に悪影響を及ぼす可能性をもつものもあります。環境化学物質の悪影響から将来にわたって人類の健康を守るためにには多岐にわたる研究が必要です。本公開講座では、環境化学物質の曝露評価に関する研究を議論します。

入場無料

どなたでもご参加いただけます。

参加方法 現地参加のみ
(会場に直接お越しください)

お問い合わせ

第96回日本衛生学会学術総会大会事務局
TEL: 0282-87-2133 (直通)
E-mail: jsh96@dokkyomed.ac.jp

主 催 日本学術会議 環境学委員会・健康・生活科学委員会合同 環境リスク分科会、一般社団法人日本衛生学会、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）「種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割解明とQOL向上、社会啓発を目指した領域統合多施設共同疫学研究」班

後 援 国立医薬品食品衛生研究所、国立研究開発法人国立環境研究所、一般社団法人日本環境化学会、一般社団法人日本公衆衛生学会、一般社団法人室内環境学会、一般社団法人日本毒性学会、一般社団法人日本DOHaD学会、日本内分泌搅乱物質学会、日本免疫毒性学会、日本臨床環境医学会



リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。